

企業ニュース ラウンドワン

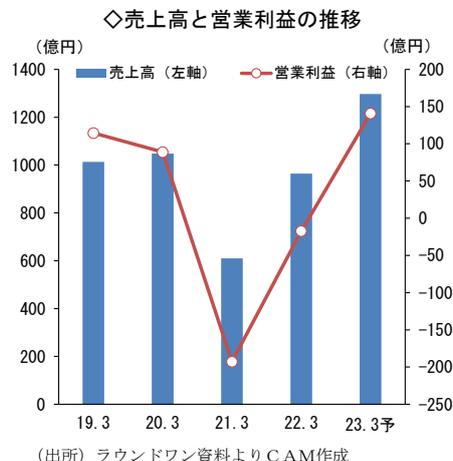
(東証プライム : 4680) <https://www.round1.co.jp/>

作成者:高見澤晶子

屋内型複合レジャー施設を展開

ボウリング、アミューズメント（ゲーム）、カラオケ、スポッチャ（時間制スポーツレジャー施設）を中心とした屋内型複合レジャー施設を展開。22. 3期末の店舗数は、国内99店、米国46店、中国3店、ロシア1店（ロシアは2022年4月に事業撤退）。主力は国内事業だが、コロナ禍以降は国内需要の戻りが鈍く、米国が回復をけん引している。

国内はボウリングやカラオケが苦戦する中、アミューズメント、特にクレーンゲームが健闘している。これを踏まえて、22. 3期よりクレーンゲーム機を約300~600台設置したギガクレーンゲームスタジアム店舗を増やすとし、順次改装を進めている。22. 3期末時点の改装済み店舗は34店、23. 3期の上期までに60店とする予定。



23. 3期はコロナ禍前の水準を上回る見込み

22. 3期の連結業績は、売上高が964億円、前期比58%増、営業利益が17億円の赤字、同176億円増（前期は193億円の赤字）。売上高、営業利益とも2月の修正計画をやや上回った。米国が想定以上、既存店売上高は平常時（2019年3月~2020年2月）比2%増と、コロナ禍前の水準を回復した。一方国内は、既存店売上高が平常時（2019年2月~2020年1月）比26%減と苦戦した。

23. 3期の通期会社計画は、売上高が1, 297億円、前期比34%増、営業利益が141億円、同158億円増。国内の既存店売上高は20. 3期比2%増を想定、コロナ禍からの段階的な回復を前提としている。足元は4月が2019年同月比9%減、5月が同1%増と回復傾向で、ギガクレーンゲームスタジアム化を進めるアミューズメントが好調。また、米国の既存店売上高は20. 3期比10%増を想定、4月は2019年同月比35%増、5月は同30%増と好調さを維持している。米国ではエネルギー価格のほか人件費の上昇が気掛かりだが、値上げで対応するとしており収益性は維持できるとみられる。なお、新規出店は国内1店、米国4店、中国2店を計画。特に米国は経済回復が確認できたことから積極的な出店を行う方針であり、中長期での出店増による売上成長も期待できよう。

[株価動向・投資判断]

米国を中心とした海外成長、アミューズメントへの注力による国内需要の早期回復に注目。

<4680 ラウンドワン 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21. 3	60, 967 (▲ 42)	▲ 19, 286 (-)	▲ 19, 811 (-)	▲ 17, 973 (-)	▲ 202. 2	20. 00
22. 3	96, 421 (58)	▲ 1, 726 (-)	5, 360 (-)	3, 937 (-)	42. 0	20. 00
23. 3 予	129, 670 (34)	14, 070 (-)	13, 400 (150)	9, 000 (129)	94. 3	20. 00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)

株価 (2022/6/17)	1, 539 円
年初来高値 (高値日)	1, 714 円 (22/6/10)
同 安値 (安値日)	1, 109 円 (22/3/8)
予想 P E R (23. 3 予)	16. 3 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	569. 1 円
P B R	2. 70 倍
予想配当利回り	1. 30 %
(1株当たり配当金年20. 00円)	
R O E (22. 3)	8. 3 %
発行済み株式数	9, 545 万株